

ルカの福音書 第24章 32節

「そこで二人は話し合った。『道々お話になっている間も、聖書を説明して下さった間も、私たちの心はうちに燃えていたではないか。』」

秋空に水分をたっぷり含む夏雲が流れている。季節の変わり目には様々な空模様が現れる。澄んだ空気から射しこむ陽光があると思えば、さきほどの雨雲が横切りかなり激しい雨となる。それもやがては止み、西の空にはあかね雲が横たわる。明日は晴天なり、と予告する。それぞれの時のずれで人々を慌てさせ、戸惑わせる不安定な季節がある。

道々で話しかけて下さったお方がいた。最初はどなたかわからず、自分たちがひどい目にあったことを告げるだけであった。都で直面した悲惨な出来事でこころが曇り、とにかく一目散で都から離れる。その彼らに追いつき道々話しかけてくださるお方がいる。

都に背を向け、降る者たちの同伴者となるお方がいる。そのお方が二人の招きにより同じ屋根のもとでときを過ごす。彼らに同伴して下さったお方がパン裂きをしてくださる。彼らの目が開かれ、同伴者がどなたかわかる。わかった途端、同伴者主イエスが見えなくなる。そのとき、二人の会話から、同伴者のお方の御声を聞いているとき、二人の心はうちに燃えていたことを思い起こす。燃えている。

2023年10月10日